

平成 20 年度生 入学試験過去問題

[特待生入試]

国語

学校法人 神戸創志学園

関西健康科学専門学校

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 「特待生入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

だれの言葉だったか正確には思い出せないが、こんな言葉を読んだ記憶がある。「人力車を引いていた人が自動車の運転手になったわけではない……」。

(1) これは「人力車を引いていた人が自動車を発明したわけではない。」だったかもしれない。それはどちらでもよい。この言葉が言おうとしていたことは、テクノロジーの発展には、**A** がつきものだということだったろう。

人力車を引いている人が、いかにすぐれた走力を持ち、あるいは気持ちのいい客あしらいを心得ており、人間文化財にしてもいいようななごことなりズムで街頭を滑っていく技術をもつていようと、彼の引く車は、①ソヤで乱暴な運転手の運転する自動車に、多くの点で全く及ばない。これは人間の用いる道具の歴史をつらぬく、②ヒジヨウな鉄則を示す一例である。互いに一対一で斬り合ったなら絶対に敗れることはない③シブしている武士が、刀のにぎり方さえ知らない百姓、町人あがりの軍隊の鉄砲の前に、あえなく敗れ去った例は、西郷隆盛の私学校党をはじめとしていくらでもある。

これらのことは、最近流行の言葉を借りれば、メディア(媒体)の革新そのものが社会の体質に变革をもたらす、ということの例にほかならないだろう。社会の革新だけではない。④それはある場合、人間の時間・空間意識を変えてしまう。例えば東京から九州まで、地上を歩いていった時代の人々にとっては、東京・九州間の空間的な距離は、絶対に変えることのできない⑤シヨウガイとしてそこに存在していた。(2)、今日ジェット機で九州まで飛ぶ人にとっては、この距離は、単に約一時間の時の経過であるにすぎない。⑥彼はいつたん飛行機の座席に座った以上、一歩も歩きはしないのだから、距離という空間的尺度で測りうる行動を、何ひとつするわけではない。彼にとって存在するのは、飛行機が飛んでいるあいだの時間だけである。(3)、ここでは、距離は約一時間という時の経過の意識として、彼の中に存在するだけである。

空間は、外的な **B** によつてではなく、内的な **C** によつて測られるものとなる。これは、人間が自分の足で地上を踏んで歩くことをやめ、自動車や汽車や飛行機という媒体を利用することをはじめた⑦シエンカンから生じる、新しい知覚現象である。(4)、ゆくゆく、ちよつと星と星の距離を光年という単位で表すように、地球上の、例えばアルジェリアと日本の距離を、十数ジェット時というふうに言い表すようになったとしても、決して不思議ではない時代がやってくるだろう。おそらくその方が、何万何千何百キロというよりもいつそう⑧メイリヨウに距離の **D** を伝達しあえる時代が来るだろう。

(5) 我々には、某町まで何十キロという言い方より、車で何時間という言い方のほうが親しくなっていないか。人間は道具を次々に発明するが、その道具が人間の時間・空間感覚を変えるのだ。それは、道具が人間の位置を【小は家庭や居住区内での位置から、大は宇宙における位置まで】変えてしまう性質をもっているからである。

(大岡 信 『肉眼の思想』より)

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かつて、大学闘争が終了したあとの大学のキャンパスには、〈ことば〉がまさに失われた状況が存在した。ひとと出会っても①そこには気まずい沈黙が存在した。半年間も誰も一言も口をきかなかつたという友人もいた。妙な雰囲気なかで、ぼくは何人かの友人たちと「総合文化研究会」なるサークルをでつちあげた。在学中の大学では、自治会は解体していたから、どのサークルがどこの部屋を使うというような規則はなきに等しく、とりあえず、あいている部屋を②ゴウインに③センキョしてしまった。(中略)

そして、総合文化研究会はスタートした。会員の規則は特になく、とりあえずいくらかを払って資金をプールした。この資金は、何のためのものかといえば、マンガ週刊誌と雑誌を買うためのものなのだった。映画、文学、マンガなどあらゆる文化を対象とするとうたいながら、実際ここでは何もされなかった。暇があると、皆が④そこに集まり、マンガ週刊誌を読んだり、社会問題について議論したり、映画の話をしたりした。入ってくる者はこぼれまなかつたが、出てゆくのは自由だった。メンバー集めもそれほど積極的ではなかった。メンバーの考え方も一樣ではなかったし、何も強制することはなかった。ただそこで出会ってしゃべるといふ空間が設定されたことだけが重要なことだったのだと思う。サークルの存続などはどうでもいいことだった。おそらく、ぼくらが大学を卒業したあとは、除々に消滅したのではないかと思う。

たしかにあそこに開放された空間、**A**の空間が一時的につくりだされたのだ、と今にして思う。

こういうことを考えてゆくと、「野球ヤジ研究会」、「お月見愛好会」などといった奇妙な大学サークルの氾濫も、また、ある種の退行の場、甘えの場の⑤テイキョウという意味あいをもっているのかもしれない。「三人寄ればサークル」の時代というのは、(1)と見ることもできるだろう。むしろ、それが退行のままに終わっている若者たちも多いのだろうし、さらに問題なのは、こうした(2)性の大きいサークルのなかに入らず、孤立している若者たちの数も多いということだ。

結局、われわれの社会が、(2)性の大きい「甘えの場としての」(3)を崩壊させているだけでなく、かつて存在した若者宿のネドオヤという疑似的な親である年長者の存在、あるいは仲間集団というものを崩壊させ続けてきたということに大きな問題があるといえるのだろう。

ともあれ、われわれの社会が、逃げ場という許容空間を次第に⑥ウバいつつあるということだけはたしかなことなのである。逃げ場を失って、**B**のなかに入ることには失敗すれば、ひとは暴力の⑦ウズのなかにおれをなげだすことになる。せめて、社会空間の暴力化をこれ以上避けるために、何とか逃げ場という空間を、子どもや若者たちのために確保すべく、考えることこそ、浅薄な若者批判をすることより、大人たちが考えるべきことではないのだろうか。

ともあれ、③ことばへの回路を徐々にでも生みだしてゆく(場)こそ、われわれの社会で今もつとも切実に必要なものなのだ、ということを描くことで、ぼくは、ひとまずこの〈物語〉をしめくめることにしたいと思う。

(桜井 哲夫 『ことばを失った若者たち』より)

問一 傍線①・②のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄A・Bのそれぞれに該当する適切な語(三字以内)を、本文中から抜き出して答えなさい。

問三 空欄1に入るのに最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 無目的・無計画な寄り合い世帯的な現象

イ 少人数でも何か目的性・計画性のある方向を発見できればという現象

ウ 大学に入って初めて依存欲求をなにがしかのかたちで求めたあげくの現象

エ おいつめられた状況のなかから、ただただ脱出したいという欲求が吹き出した現象

問四 空欄2・3のそれぞれに入るのに最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

空欄2 ア 許容 イ 退行 ウ 消滅 エ 拡散 オ 縮小

空欄3 ア 社会 イ 大学 ウ 家 エ 親 オ 友

問五 傍線①・②「そこ」が指示している内容を、本文中から抜き出して答えなさい。

問六 傍線③「くことば」くの回路」をわかりやすく二十字以内で答えなさい。(句読点含む)

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 「特待生入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

船はようやく町らしいなかへはいる。腰障子に御着と書いた居酒屋が見える。古風な縄^{なわ}腰^わ簾^{れん}が見える。材木の置場が見える。人力車の音さえ時々聞える。乙^{つば}鳥^とがちちと腹を返して飛ぶ。家鴨^{あひる}ががあがあ鳴く。一行は船を捨てて停車場に向かう。

いよいよ①現実世界へ引きずり出された。②汽車の見える所を現実世界という。汽車ほど二十世紀の（ A ）を代表するものはあるまい。何百という人間を同じ箱へ詰めて轟と運る。情け③ヨウシヤはない。詰め込まれた人間は皆同程度の速力で、同一の停車場へとまつてそうして、同様に蒸気の恩沢に浴さねばならぬ。人は汽車へ（ B ）という。余は（ C ）という。人は汽車で（ D ）という。余は（ E ）という。汽車ほど個性を④ケイベツしたものはない。文明はあらゆる限りの手段をつくして、個性を発達せしめたる後、あらゆる限りの方法によつてこの（ F ）を踏み付けようとする。一人前何坪何合かの地面を与えて、この地面のうちでは寝るとも起きるとも勝手にせよというのが現今の文明である。同時にこの何坪何合の周囲に⑤テツサクを設けて、これよりさきくは一步も出てはならぬぞとおどかすのが現今の文明である。何坪何合のうちで自由をほしひままにしたものが、このテツサク外にも自由をほしひままにしたくなるのは自然の勢いである。⑥懶むべき⑦文明の国民は日夜にこのテツサクに嘯^{ほう}み付いて咆哮して居る。

文明は個人に自由を与えて虎のごとく猛^{たけ}からしめたる後、これを檻^{かみせ}の内に投げ込んで、天下の平和を維持しつつある。この平和は真の平和ではない。動物園の虎が見物人^{だら}を睨めて、寝転んで居ると同様な平和である。⑧檻の鉄棒が一本でも抜けたら世は⑨メチヤメチヤになる。第二の佛^フ蘭^ラ西^ン革命はこの時起るのである。個人の革命は今既に日夜に起りつつある。北歐の偉人イプセンはこの革命の起るべき状態に就いて⑩具にその例証を吾人に与えた。余は汽車の猛烈に、見界なく、すべての人を貨物同様に心得て走る様を見る度に、客車のうちに閉じこめられたる個人と、個人の個性^{すんごう}に寸毫の注意をだに払わざるこの鉄車とを比較してあぶない、あぶない。気を付けねばあぶないと思う。現代の文明はこのあぶないで鼻を⑪衝かれるぐらい充滿している。おさき真闇に⑫モウドリする汽車はあぶない標本の一つである。

停車場前の茶店に腰を下ろして、蓬餅^{よもぎもち}を眺めながら汽車論を考えた。これは写生帖へかく訳にも行かず、人に話す必要もないから、だまって、餅を食いながら茶を飲む。

向うの床^{しょうど}凡^{ぼん}には二人かけて居る。等しく草鞋^{わらじ}ばきで、一人は赤毛布、一人は干草色の股引の膝頭^{つひ}に継布をあてて、継布のあたった所を手で抑えている。「矢つ張り駄目かね」「駄目さあ」「牛のように胃袋が二つあるといいなあ」「二つあれば申し分はなえさ、一つが悪くなりや、切つて仕舞えば済むから」。この田舎者は胃病と見える。彼らは満州の野に吹く風の臭いも知らぬ。現代文明の弊をもみとめぬ。革命とは何如なるものか、文字さえ聞いた事もあるまい。

（夏目 漱石 『草枕』より）

問一 傍線①のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 空欄Aに入るのに最も適当な語を、本文中から抜き出して答えなさい。

問三 空欄B～Eに入るのに最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------|------|---------|------|
| ア 投げ出される | イ 行く | ウ 運搬される | エ 走る |
| オ 積み込まれる | カ 乗る | キ 抑圧される | ク 着く |

問四 空欄Fに入るのに最も適当な語を、本文中から抜き出して答えなさい。

問五 傍線部①「現実世界」に対して、その前の三行に描かれたのは、どういう世界ということになるか簡潔に答えなさい。

問六 傍線部②「汽車の見える所を現実世界という」はなぜそう言えるのか、本文中の語を用いて答えなさい。

問七 傍線部③「文明の国民」を比喩的に表現している語を、本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問八 傍線部③「文明の国民」と対比的な意味で使われている語を、本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問九 傍線部④「檻」はどのような内容の比喩だと考えられるか、五字以内で答えなさい。

問十 この文章の主旨を最もよく示している語を、本文中から六字以内で抜き出して答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小説というものの一番普通の魅力は、読者に自分を忘れさせるところにある。自分を忘れ、小説中の人物となり、小説中の生活を自らやっているように①サツカクする。小説中の人物とともに恋愛し、殺人しているようにサツカクする楽しみ、この楽しみに身をまかすという事こそ、小説の一番普通の魅力である。②ムロンこれは、小説というものの根本の魅力であり、こういう魅力を持たぬものは、小説とはまず言えないのであるが、普通の読者は③この魅力以上の魅力を小説から求めようとはしない。④耳をふさいで冒険小説を読む子供の小説の読み方から一向進歩しようと努めない。

(A)

ハドソンの「ラ・プラタの博物学者」という本のなかに、死を装う本能について、狐の話が書いてある。狐は危険が迫ると死んだ振りをする。時々うす目をあけて、もう大丈夫かどうか確かめる。大丈夫と見定めると、そろそろ立ち上がって逃げ出す。その術策は⑤コウミヨウを極めていて、犬などは完全にだまされるそうであるが、あんまりコウミヨウすぎて本当に死んでしまう話もあるそうで、ある人が実験したら、胴体を切断してしまうまで死んだ振りをしていただけ。 (B)

読んだ時、吹き出しそうにおかしかったが、考えてみると、小説に毒されて、他人を装う術がすっかり身につけてしまい、本当とうそとの区別がつかなくなってしまうような文学好きの例には、しばしば出会い事を思えば、あまり狐を笑えたものではないのである。

(C)

実地に何かやってみるまでもなく、小説を読んでいれば実地に何でもやっている気になれるので、実地に何もやらなくなる。じつと坐つては人生を経験したサツカクを楽しむ時を過ごすようになる。例えば、恋愛など実地にした事もないのに、小説に様々な素晴らしい恋愛を読みかじって、恋愛を装う術が身につけてしまうと実際の恋愛など何物だかわらなくなってしまう。本当に恋愛の相手を見付けても、恋愛を装う術は容易に抜けられず、まるで小説のなかにいるのか、実地に恋愛しているのか、自ら⑥カエリみても何が何やらわからぬと言ったような事になる。

(D)

このような事になるのも、小説の読み方というものをまじめに考えてみた事がないからだ。ただ小説を、自分を失う一種の⑦ジグキのようなものとして受け取っているからだ。だからやがて中毒するのである。

(E)

これは小説ばかりではない、いろいろな思想の書物についても言える事だ。読書というものは、こちらが頭を空にしていけば、向うでそれを満たしてくれるというものではない。読書もまた実人生の経験と同じく真実な経験である。絶えず書物というものに読者の心が目覚めて対していなければ、実人生の経験から得るところがないように、書物から得るところはない。その意味で小説をつくるのは小説の作者ばかりでない。読者もまた小説を読む事で、自分の力で作家のつくるところに協力するのである。この協力感の自覚こそ読書のほんとうの楽しみであり、こういう楽しみを得ようと努めて読書の工夫はなすべきだと思う。いろいろな思想を本で学ぶという事も、同じ事で、自分の身に照らして書いてある思想を理解しようと努めるべきで、⑧書いてある思想によつて自分を失う事が、思想を学ぶ事ではない。恋愛小説により、自分を失い他人の恋愛を装う術を覚えるように、他人の思想を装う術を覚えては駄目だと思う。

(F)

問一 傍線部㉑㉒のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 次の文章を補うとすれば、(A) ～ (F) のどこに入ればよいか。記号で答えなさい。

自分を忘れ去るという習慣は、小説の濫読によつていよいよ深くなってくる。つまり小説をむやみに読んでい
るうちに、自分を失い、他人を装う術が、しらずしらずに身に付いて来るのである

問三 傍線部①「この魅力以上の魅力」とは何か、本文中の語を用いて四十字以内で答えなさい。(句読点含む)

問四 傍線部②「耳をふさいで冒険小説を読む子供の小説の読み方」は、次のような読み方であると考えられる。

空欄部に入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

その作品に() するような読み方

ア 集中 イ 耽溺 ウ 惑乱 エ 錯覚

問五 ハドソンの「ラ・プラタの博物学者」に出てくる「狐の話」について、筆者はこの話を、どのようなものとして引
用していると考えられるか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 童話的 イ 挿話的 ウ 説話的
エ 寓話的 オ 美話的

問六 ハドソンの「ラ・プラタの博物学者」に出てくる「狐」は、何の比喩だと考えられるか、本文中から最も適切な部
分の初めと終わりの三字を抜き出して答えなさい。

問七 傍線部③「書いてある思想によつて自分を失う」と同じような意味で用いられている語を、本文中から十字以内
で抜き出して答えなさい。

問八 本文の題として最もふさわしい語を、本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

平成二〇年度生 入学選考試験 国語 「特待生入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

正 午

丸ビル風景

中原 中也

あゝ十二時のサイレンだ、サイレンだサイレンだ
 ぞろぞろぞろぞろ出てくるわ、出てくるわ出てくるわ
 月給取の午休み、ぶらりぶらりと手を振つて
 あとからあとから出てくるわ、出てくるわ出てくるわ
 大きなビルの真ッ黒い、小ツちやな小ツちやな出入口
 空はひろびろ薄曇り、薄曇り、埃も少々立つてゐる
 ひよんな眼付で見上げてても、眼を落としても……
 なんのおのれが桜かな、桜かな桜かな
 あゝ十二時のサイレンだ、サイレンだサイレンだ
 ぞろぞろぞろぞろ、出てくるわ、出てくるわ出てくるわ
 大きいビルの真ッ黒い、小ツちやな小ツちやな出入口
 空吹く風にサイレンは、響き響きて消えてゆくかな

この詩は、①花曇りの大都会のビル街の、午めし時風景。ビルの小さな入り口から、とても人間とは思えない、まるで（ A ）のようにぞろぞろ群がって、食べものをあさりに出てくるサラリーマンを、遠くの方から、ぼんやり②ながめながら、人生というものの③アジケなさ、意味のなさ、それを通りこした（ B ）を④ツウレツに感じながら、うたっているのである。

この作品には、とくに説明を要するような個処はないが、中央部のあたりの「ひよんな眼付で見上げてても、眼を落としても……なんのおのれが桜かな、桜かな桜かな」には、変わった意識の⑤クツセツがひそんでいるので、ややわかりにくさを感じさせるものがある。

「ひよんな眼付で見上げてても、眼を落としても……」は、⑥モチロンサラリーマンの姿態の⑦ビヨウシヤだが、「なんのおのれが桜かな、桜かな桜かな」は、完全にサラリーマン自身の心の中の⑧ツブヤきになっているのである。つまり、ビルから外へ出たサラリーマンが、ふと花曇りの空を見あげて、⑨イッシユンおや、と思わせるように楽しそうな眼付けをしても、また、思いかえたように力なく眼をおとしても、結局は腹が空いては問題にならない。だれもかれも、みんな心の中で「なんのおのれが桜かな」と繰返して、⑩桜の花への希望を断たれた生活の嘆きをツブヤいているのだ。少なくとも、そういうふうには遠くからながめられるというのである。

この個処で、とくに味わうべきは「（ C ）」と繰返した点で、この繰返しの中には、サラリーマンが何度も自分に言いきかせる様子や、そうツブヤきながら足を運ぶ重い足どりなどまでが表現されているということである。

そして、またこの部分は、その詩全体の音楽的なテンポの流れを、妙に引つかかるようなリズムとイメージで（ D ）が、却つてその不協和音的なものが、この詩のリズムに新鮮な変化をもたらしている。

終連の最後の行は、そうした哀れなサラリーマンどもの気も知らぬげに、（ E ）響きながら空のなかに消えてゆくのだ、というのである。

この詩は、修辭的に見て無理のない整った作品であり、その上（ F ）と（ G ）とを同時に取り入れ、それを巧みにリズムカルな詩的表現に還元した点で、大変面白い作品ということができよう。

（村野 四郎 『中原 中也の詩』より）

問一 傍線①のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部①「花曇り」の意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 桜の花がぼうつと霞んで見えること
- イ 花は曇っているとよく映えるということ
- ウ 花が咲き美しい雲が浮かんでいること
- エ 桜の咲く頃の曇りの天気のこと
- オ 花見は曇りのときに限るということ

問三 空欄Aに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 油虫 イ 蜜蜂 ウ 蟻 エ うじ オ 毛虫

問四 空欄Bに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア たいくつさ イ おかしさ ウ おそろしさ
- エ きみわるさ オ ばからしさ

問五 傍線部②「桜の花への希望を断たれた生活の嘆き」について、その意味を右の鑑賞文に即して、三十字以内で答えなさい。
(句読点含む)

問六 空欄Cに入るのに最も適当な語を、本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問七 空欄Dに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 飛躍させている イ 変化させている ウ せき止めている
- エ 反転させている オ 回転させている

問八 空欄Eに入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア おもく イ すごく ウ びびく エ ものうく オ かるく

問九 空欄F・Gに入るのに最も適当なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 幻覚 イ 視覚 ウ 味覚 エ 嗅覚 オ 聴覚

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「文科系なんてね、むづかしいことはよくわからない。でも、科学や技術というと、どうも不安が……」という人達がいる。

一方、「科学的に考えれば、問題がないことがわかるのに、無知な人はしょうがない。まあ、専門家にまかしておきなさい」という技術者たちも少なくないようだ。

私たちの身のまわりには技術の産物があふれている。そんな時代に、文科的人間と理科的人間が相互に不信を抱き合い、あちこちで不協和音を発しているようだ。

科学技術週間が四月十七日から始まるのを機会に、①両者が理解し合う場を考えてみたい。

英国の文明史家C・P・スノーは、こんなことを書いている。「②かれら(文科系知識人)は科学者の無学について不信を表明することにたいへん興味をもっていた。かれらに熱力学の第二法則について説明できるかたずねた。答えは冷ややかだった。『シエイクスピアのものを読んだことがあるか』と同等の質問をしただけなのに」(邦訳『二つの文化と科学革命』)

熱力学の法則は少しむづかしすぎるかもしれないが、現代社会を支えている基本的な法則を知ろうとしない、科学や数学なんて分からないと公言してはばからない「文化人」が今日でもいらないだろうか。

科学を理解することは、読み書きができるのと同じ程度の③ソヨウだとみなしていい時代になっている。だが一般の人の「科学的ソヨウ」は、かんばしくないといわれている。

たとえば、「電子は原子より大きいかどうか」「最古の人類は恐竜と同時期にいたかどうか」「DNAとは何か」といった質問によるテストに合格したのは米国人の六%、英国人の七%だった。(米誌『サイエンス』)

このような具体的知識なら、日本人はもう少し成績がいいかもしれない。しかし、それよりも大切なのは、科学的に考えること、科学の手法になじむことだ。

文科人間に望まれていることのひとつは、危険性や安全性を量的にとらえることだろう。どんな技術にも、なにがしかのリスク(確率的危険性)があるといつてよい。ひとくちに発がん物質といつても、その強さと含まれる濃度、それに体に入る量や吸収量を④カンアンしなければ、危険の度合いをはじけない。リスクと便益とのバランスも重要だ。

もう一つは「異常」のとらえ方だ。何か変化が起きた場合、原因と思われるものが作用しなかった別の事例との比較をしなければ、因果関係はつかめない。薬などの効き目を⑤ベンテイするさい同じ症状で(A)使わなかった患者との比較をするのと同じことだ。

これらは、科学社会に生きるための⑥サボウであるとともに、⑦科学を装った数字や統計の魔術にまどわされないための知恵にもなる。

理科人間には、「科学や技術はだれにもわかる」という考えで、誠実に説明する努力を求めたい。小さなリスクの扱いを説明するのをおこたつて「安全です」のひとことで片づけるところから、不信が生まれる。

「科学的」というと、ものごとが割り切れるように思われがちだが、科学的に考えれば考えるほど、分らない部分が出てくることも多い。そこに、人間の感性が入り込み、価値観がぶつかりあう⑧ヨチがある。「科学的に正しいから」というだけでは、人間を説得できない。やはり、科学や技術を説く人間にたいする信頼感が必要だと思う。

今年の科学技術週間のテーマは「科学と歩もう、未来の世界へ」。科学と社会が手をとり合うには、理性と感性の融合が大切ではないだろうか。

(朝日新聞 『文科人間と理科人間』より)

問一 傍線①㉔のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部①「両者が理解し合う場を考えてみたい」の趣旨に適合するものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誠実に説明する努力 イ 科学技術週間 ウ 「異常」のとらえ方
エ 科学や技術を説く人間に対する信頼感 オ 危険性や安全性を量的にとらえること

問三 傍線部②「かれらくしただけなのに」の直後に付け加える文として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア このように、科学者たちの無学について不信を表明する文科系知識人は、実は根拠のない発言をしているのである
イ このように、文科系知識人たちもまた、科学者の領域とみなされる事柄については無学でありがちな
ウ このように、シェークスピアの作品も熱力学の法則も、それを専攻する人たち以外にとってはひとしく難解である

問四 空欄 A に入るのに最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア ありながら、その実験の対象に
イ あるから、その実験の対象に
ウ ありながら、その薬を
エ あるから、その薬を

問五 傍線部③「科学を装った数字や統計学の魔術」について、この記述の意図に最も適合しているものを選び、記号で答えなさい。

- ア 装った数字や統計 イ 科学を装った魔術
ウ 科学を装った数字 エ 科学を装った数字や統計

問六 本文の趣旨に合致しないと思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 文科学的人間に望まれるのは危険性や安全性を量的にとらえることと、異常のとらえ方に留意することだ
イ 危険性や安全性について理解することは、理科学的人間にとつての基本的条件である
ウ 今の時代に大切なのは、理性と感性の融合であらう
エ 理科学的人間の間でも、価値観がぶつかり合う場合がある

平成二〇年度生 入学選考試験 国語「特待生入試」 解管用紙

受験番号	
------	--

氏名	
----	--

問一	1	ウ	2	イ	3	カ	4	エ	5	ア	3点×5	
問二	(ア)	粗野	(イ)	非情	(ウ)	自負	(エ)	障害	(オ)	瞬間	2点×6	
問三	(カ)	明瞭										3点
問四	B	距離	C	時間	D	感覚						3点×3
問五	メディアの革新(そのもの)										5点	
問六	ジェット機で九州まで飛ぶ人										5点	
問七	技術の発達はメディアを革新し、 社会だけでなく、人間の時間・空 間意識も変える。										8点	

問一	(ア)	強引	(イ)	占拠	(ウ)	提供	(エ)	奪	(オ)	渦	2点×5	
問二	A	甘え	B	こ	と	ば	※ Aの解答として、逃げ場でも可					3点×2
問三	ウ										3点	
問四	2	ア	3	ウ								3点×2
問五	①	ひとと出会った場										5点
問五	②	強引に占拠した部屋(ゴウインにセンキョした部屋)										5点
問六	複数の人間が、対象が何であれ、 気楽に話し合えるような状況。										8点	

平成二〇年度生 入学選考試験 国語「特待生入試」 解答用紙

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一	問一	ア	容赦	イ	軽蔑	ウ	鉄柵	エ	あわれ	
		オ	滅茶	カ	つぶさ	キ	つ	ク	盲動	
	問二	文明								
	問三	B	カ	C	オ	D	イ	E	ウ	
	問四	個性								
	問五	二十世紀以前の世界（昔ながらの世界）								
	問六	汽車は二十世紀の文明を代表するものだから								
	問七	動物園の虎	問八	田舎者						
	問九	社会的規範	問十	現代文明の弊						

※法秩序OR法律や規則も正解

二	問一	ア	錯覚	イ	無論	ウ	巧妙	エ	省				
		オ	刺激										
	問二	A											
	問三	で	作家のつ	く	る	と	こ	ろ	に	協	力	す	る
		、	そ	の	協	力	感	の	自	覚	。		
	問四	イ											
	問五	エ											
	問六	小説に	、	学	好	き							
問七	他人の	思	想	を	装	う							
問八	読書の	工	夫										

2点×8 4点 3点×4 4点 4点 4点 4点×2 4点×2 2点×5 4点 6点 4点 4点 4点 4点

平成二〇年度生 入学選考試験 国語〔特待生入試〕 解答用紙

受験番号	
氏名	

問九		F	イ(オ)	問七	ウ	問六	桜 か な	問五	い 重 苦 し い 現 実 生 活 へ の 嘆 き 。 は な	問三	マ ン の 、 花 ど こ ろ で は な	問二	エ	問一	オ 勿論 ア 眺 イ 味気 ウ 痛烈 エ 屈折	3点×2	4点×2	4点	9点	4点×3	3点×8
----	--	---	------	----	---	----	-------------	----	------------------------------------------------------------------------------	----	-----------------------------------------------------	----	---	----	----------------------------------------------------	------	------	----	----	------	------

問六	イ	問五	イ	問四	ウ	問三	イ	問二	エ オ	問一	オ 素養 イ 勘案 ウ 判定 エ 作法	4点	4点	4点	4点	3点×2	3点×5
----	---	----	---	----	---	----	---	----	--------	----	------------------------------------------	----	----	----	----	------	------